
博士の新型爆弾

ひるね

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

博士の新型爆弾

【コード】

NO114L

【作者名】

ひるね

【あらすじ】

ドミニク博士は爆弾作りで有名だった。彼の爆弾は威力が高い上、とても爆弾に見えない形状をしていた。

ドミニク博士は爆弾作りで有名だった。

彼の爆弾は威力もさることながら、その形状の特殊さに特徴があった。車やバイクを模した乗り物型爆弾に始まり、犬や鳥に似せた動物型爆弾、どう見てもおいしそうなお菓子型爆弾など、どれもこれもまったく爆弾には見えないものばかりだった。

その日、軍隊の頂点に立つ将軍が、博士の作った爆弾で大戦果を挙げたとお礼を言いに来てきた。

「博士、いつもありがとうございます」

「いやいや、礼には及ばないよ。私は好きで爆弾を作っているだけなのだからね。ところで、今回の爆弾はどうだったかね」

「素晴らしいの一言に尽きますよ。まさか子ども型爆弾とはね。間抜けな隣国の連中が油断して近づいてきたところでドカン！ 我が軍はそれを見て大爆笑してわけです。まったく、博士にも見せたかったものですよ」

「確かに、どの程度の威力が出たかは見たかったがね」

「その威力もまたすばらしい。連中、まさに木っ端微塵でしたからね。おかげで、今回の戦闘は我が軍の大勝利でしたよ」

「ほう。ということは、敵方かなりの損害を与えたのだね」

「それはもう。博士のおかげで、この忌々しい戦争にもようやく決着がつきそうです。我が国が勝利した暁には、博士には勲章が贈られるでしょうな」

「そうか、戦争が終わりそうか。それは何よりだ」

それからドミニク博士は、ふと思いついたように言った。

「おお、そうだ。実はつい昨日、新型の爆弾が完成してね。君たち軍人に出来映えのほどを見てもらいたいのだが、構わないかね」

それを聞くと、将軍は子どものように目を輝かせて一も二もなく

了承した。

後日、街から幾分離れた草原に、実験に立ち会う軍人たちが勢揃いした。いずれも軍隊の指揮にかかわる、地位の高い軍人たちだった。

辺りは見晴らしのいい草原で、爆弾らしきものはどこにも見あたらない。軍人たちは一様に首を傾げていた。

そんな中、将軍がぽんと手を打った。

「博士、読めましたよ。その辺の草が爆弾だっていうんですね？
植物型爆弾！ いいぞ、森の中で戦うときに便利そうだ」

「いやいや、そうではないよ」

「そうですか……。あ、では、もしかあの雲ですか？ 敵の上空から爆風を降らせるとか」

「それも違うな」

「はあ、では私にはお手上げですな。そろそろ教えてくださいよ。
一体どこに爆弾が」

あるのですか、と言おうとした瞬間、将軍の視界が真っ白に染まった。その一瞬後にすさまじい爆風が起きて、軍人たちは一人残らず木っ端微塵になってしまった。

その様子を、ドミニク博士が遠くから双眼鏡で見ていた。

「よしよし、私型爆弾の出来は上々だな。これを手土産にして隣国に亡命するでしょうか。……それにしても、戦争が終わるなんてとんでもない話だ。そんなことになったら、爆弾作りができなくなってしまうじゃないか」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0114/>

博士の新型爆弾

2010年11月24日08時49分発行